

『物語の島で』

序幕

子どもたち ねえねえねえ、聴かせて聴かせて、お話聴かせて！

お婆さん よしよし、わかつたわかつた、今日は何の話にしようかな、動物の出てくる話かな

子どもたち それがいい

お婆さん では何の動物にするかな、メエーメエー

子どもたち

お婆さん 山羊の話ー！

お婆さん ほう、よくわかつたな

子どもたち だつてメエーメエーって言つたもーん

お婆さん そうかそうか、賢い子どももらじやな、カアーカアー

子どもたち カラスも出でくるー！ カーかー

お婆さん ヒヤツヒヤツヒヤツ…出てきた、出てきた（暗転）

第一幕 ぴぴじゃーとガラサー／山羊とカラス

第一場 島の草原

コロス むかしむかし、南の島に一頭のピピジャーが住んでいました

大変立派な角を持つ、美しいオスのヤギでした

ある日のこと、一羽のガラサー（カラス）が空を飛んでいました
すると美しく見事なヤギの角が目にとまりました

カアーカアー、ヤギさんヤギさん、こんにちは、カアー

メエーメエー、カラスさんカラスさんこんにちは、何かご用ですか、メエー

カアーカアー、あなたの角は大変立派で美しいですね、カアー

メエーメエー、ありがとうありがとうカラスさん、メエー

カアーカアー、ヤギさんヤギさん、私はずうつと前から、一度でいいからあなたの角に止まつて

みたいと思っていたのですが、いかがでしょう、カアー？

メエーメエー、いいですともいいですとも、どうぞお止まりなさい、メエー

角に止まつてみると、カラスはヤギの毛並みがたいへん美しいことに気がつきました

カアーカアー、ヤギさんヤギさん、美しい毛並みですね

ありがとうありがとうございます、メエーメエー

それに、角と角は、毛が渦を巻いているのですね、めずらしいー！
そんなんに珍しいですか？

はい、とっても素敵です。で、ひとつお願ひがあるのです

何でしょう？

あなたの頭の上の角と角の間に、あなたのみごとな毛並みから少しいただいて、巣を造つて別荘にしたいのですが、いかがでしょう、カアー？

(ギクリとする) メエツ、エエツ、(少し思案してから決断) メエーメエー、あゝいですともいいですとも、どうぞお造りなさい、メエー

ありがとう、山羊さん！

カラスは大喜びで、ヤギの頭のてっぺんに洒落た別荘を造り、時折遊びにくるようになります。そのかわり別荘のお掃除がてら、ヤギの体中からノミを取つてあげました

(蚤をとつてやる所作) ツンツンツン、ツンツンツン

気持ちいいーそうそうそこそこ、あ、もうちょっと下、あ、行き過ぎた、もうちょっと上、そう

そこそこ…

痛くないですか？突つづいてるんで…

痛いけど気持ちいい、つまり…

イタキモー！

それからというもの、カラスとヤギはたいへん仲良しになり、いつも一緒にカアーカアー、メエーメエー、と声を合わせて歌いました

メエー

カアーカアー

メエ

カア、

カア

メエメエメエ

カアカアー、

カア

メエ

カア

メエ

カアカア

メエ

カア

メエ

カア、

カア

メエメエ

カア

メエ

鳥

山羊

鳥

山羊

鳥

山羊

鳥

山羊

鳥

山羊

鳥

山羊

物語の島で